カトリック幟町教会報
平和の鐘
編集・発行　カトリック幟町教会　広報部
広島市内チーム（幟町・東広島・三篠・翠町・向原・岩国）ヴィタリ神父、アルベルト神父、豊田尚臣神父、肥塚倖司神父、中村健三神父、福田誠二神父、大西勇史助祭
〒730-0016　広島市中区幟町 4 番 42 号
TEL　(082)221-0621　FAX　(082)221-8486
http://www.nobori-cho-catholic.com
2016 年 8 月号　No.480

ローマから見た平和、日本にいる時には感じなかった平和

信徒の皆さまへのメッセージを交えて

猪口大記神父

ローマといえば「パクス・ロマーナ」という言葉があります。意味は一種の覇道で、特定の国家の覇権に伴って、一見平和な国際関係が築かれることです。

冷戦終結後、地域的な国家間紛争はむしろ増加し、EU が第三の大規模な政治経済圏として現れた時代は今終わりを告げようとしています。そんな一見戦争がなくても「本当の平和とは何か？」と問われ続け、隠れていたものが今如実に表出しているのです。

日本にいると、未だに日本の経済規模を過大評価する人々やメディア、政治家の発言もあって気づきにくいかも知れませんが、世界は今経済において分極化し、いわゆるパクス・ロマーナの様な時代は終わっているのです。

最近、バングラデシュでテロがあり、主にイタリア人と日本人が犠牲となりました。そのためにローマ中心部で追悼集会が企画され、参加を依頼されたのですが、その 2 日前にニースでのテロがあり、中止になりました。遥かに近い場所でテロが起こったのですから、その衝撃は相当なものです。日本と異なり、軍の治安出動に抵抗があまりないイタリアでは、以前から、人が集まる場所、重要な施設の武装した兵士による巡回と警備が行われています。ずっと緊張感がヨーロッパ（特にアフリカや中東に近いイタリア等）には、あるのです。

人間は、現状にある程度満足していれば、そうそう現状を変革しようとは思いません。もちろん、現状維持が最適とは限りませんし、何でもかんでも変更や改革

を目指す事がいいとも限りません。

大きな事が起こる時には、大体何か不満なり願望なりあるのは皆様も同意してくださるのではないかと思います。ただ、当たり前ですが、手段を選ばないという事はなく、目的が良くてもテロが正当化される事はないでしょう。理解しなければならないのは、彼らも何らか理由があってテロへと走っており、単純に思想信条や宗教の問題だけで片付けられない事です。

その様な現代にあって、やはり平和を、また追及する事は、意義があるでしょう。いろいろな考えがありますが、改めて皆様に申し上げたいのは、私たちキリスト者が求めなければならない平和はパクス・ロマーナではなく、やはり主の平和だという事です。

別に難しい哲学的議論や、政治的議論をしなくとも、おそらく多くの方は、現実の体験として既に理解されているはずです。元々教会は国家や民族、文化すらも超えて、キリストのうちに一致することができる、他宗教・無神論の人とも対話する事ができると信じています。目指すものははっきりしているのです。ただ、どの様に実現するかは難しく、時に理想主義的だ、不可能だと片付け、手近な人間的平和を求めるのですが、そこに人間のエゴが入り込むと「見せかけの平和」となります。

どこの国民であれ、どの宗教に属する人間であれ、自分と異なる他者を拒否するという対話を放棄した姿勢は、本来教会が求める姿勢ではないはずです。

少なくとも平和とは、戦争や他者を屈服させる事によって得られるものではないという事は皆さんも同意していただけるのではないでしょうか。なぜなら、平和は静的な状態を指すのではなく、もっと動的なものと思われるからです。本当の平和は、多くの人との関係において、一致や対話を目指す努力が行われ、隷属や抑圧のない状態を目指しているでしょうし、さらに変化する状況に応じてそれを広げる努力がなされると思われます。単に征服や支配によって法や国家体制が整備されても、そこに生きる現実の人間を忘れたら、いつでも分裂し紛争が起きる余地は残るでしょう。

ここまで長々と書いていて、なんと当たり前の事しか言っていないのかと自分で自分が悲しくなります。しかし、これを読んでいる皆さんは、「互いに愛し合いなさい」や「福音を告げ知らせなさい」、「回心して福音を信じなさい」という、とてもシンプルな言葉を信じてそれに生きようとしているキリスト者なのですから、それ以上の事やそれ以外の事を言う必要はないのかもしれません。

最後に、他者との関係においても、自分自身の内面においても、回心と平和は深くつながっているという事を指摘しておきたいと思います。それは、自己満足のため、エゴの入り込んだ見せかけの平和を求めるのではなく、本当の主の平和を求めるためには必ず必要な事です。現状を正しく見つめ、現状の満足が見せかけのものでない事を確かめ、変えるべきものは変える。自己正当化を目指すのではなく、自らの過ちがあればその事実を受け入れ生き方を変える。いえば当たり前の事ですが、他者との対話や一致のためには、必ず必要なプロセスです。自分の内に怒りや憎悪で平和が失われている時、それは無理な自己正当化によって罪意識を遠ざけているだけかもしれません。

幟町教会
兄弟姉妹の皆様へ

神の母 聖マリア
ＹＨ

信徒になって以来８年半、皆様が祈り仕えておられる様子に感心して来ました。共にいて下さるいつくしみの神様と、共同体を作って来られた皆様に感謝し、見習い、つなぎ、少しは報いることができるようにと思います。

「もっと神に近づこう！」と熱意いっぱいに司牧してくださるヴィタリ神父様のもと、信仰深く働き者の役員仲間と共に宣教司牧評議員として、より良い教会のため、福音宣教のために努めたり、共同体のしもべの信徒会長として多岐にわたる務めを行っています。

御心に叶っているか？と思ったり、「どれだけ心をこめたか」というマザーテレサの言葉がよぎる日々です。

町中で「教会で会っています。」とか、教会で「手伝うことある？」、「元気で活躍を祈っています。」等と声をかけていただくことは、主の平和を感じてとても嬉しくありがたく心強いです。また、教会や世のために献身的に尽力されている皆様の姿や隣人愛に、神様を見る思いがして拠り所になっています。

どうぞ、ご一緒に、それぞれの賜物を発揮しながら活動や奉仕にチャレンジして、大切な教会を支え発展させて行きましょう。

主と共に祈り働きその実りを味わえますように、神様のもとに幸せでありますように祈ります。

Report ファミリーサマーキャンプ

7 月 16 日(土)～17 日(日)、教会学校のサマーキャンプが行われました。今年は家庭年ということで、家族で参加するファミリーサマーキャンプを行いました。例年と違い、お家の人と一緒にロザリオ作りとレクリエーションをするなど楽しい一時を過ごすことができました。

保護者の感想

今年は親子で参加という事で、母が見えると気になってそばにきたりするのかな？と思っていましたが、そんな心配をしなくても自分のするべき事をみつけて積極的に動いていたので安心しました。しかも何をするにもみんな一生懸命に取り組んでいて神様が与えてくださった、一足先の夏休みを思いきり楽しんでいる様子をみていたら、とても幸せな気持ちになりました。またいつもなら見ることのできない夜の様子だったり、寝ている姿も見れて面白かったです。そして改めてリーダーや神父様のご協力に感謝です！ありがとうございました。

幟町教会を良くするための提案

先般の信徒大会の分科会で提案をしていただくようにお願いし、また、各活動グループ等にも同様のお願いをしたところ、有益な提案をいただきました。

主な提案を紹介し、その提案に対する取り組みの現状と今後についてお知らせします。

提案1　教会共同体の組織（活動グループなど）への参加者・協力者を増やす

共同体の活性化、発展のためには一人でも多くの皆さんが活動グループなどに参加・協力してくださることが大切です。今まで参加したことのない人も勇気を出して、参加してくださるようお願いします。ほんの少しで結構ですから皆さんの時間と労力を教会の活動に提供してください。

提案2　週報で活動グループの活動内容を紹介し、周知や勧誘を行う

提案3　ミサで使う聖歌集を 1 冊にまとめる。

典礼部が、7 月 24 日主日ミサ用に聖歌集サンプルを作成し、以降 1 か月に 1 セットの割合で作成し、最終的には数年かけて幟町教会オリジナルの聖歌集とする予定です。

提案4　「平和の鐘」に典礼の Q&A のコーナーを作る

すでに週報では掲載をはじめていますが、「平和の鐘」にも載せます。

提案5　「平和の鐘」の刷新と充実を図る

提案6　子どもや家庭の信仰教育について、アンケートを取る

教会学校など関係のある活動グループの協力を得て実施します。

提案7　地区会を行う。

長い間、開かれていない地区会を開くようにします。教会に来ることが難しい信徒も参加できるように、できるだけ地元で行っていただくようお願いします。案内用のハガキ代、集会所などの借り上げ費用は教会が負担します。

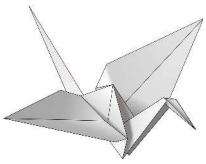
提案8　事務所からの一斉連絡網の体制を作る

メーリングシステムを作り、メーリングリストにアドレスを登録するように週報などでお願いしました。できるだけ多くの皆さんからの登録をお待ちしています。なお、従来のマリア会・ヨセフ会などの連絡網は継続します。

提案9　教会のホームページを充実させる。

英語のページもできるだけ早く作成します。

提案 10　言葉の壁を超え、日本人と外国人がもっと近く感じられ一つになるために、ミサや行事で一緒になる機会をふやす。



編集後記

ある神父様のお話の中で、「奉仕は愛を持って、喜んでやる」という言葉が印象的でした。日々の生活に追われ、喜んでできているかと自問。

「苦しい時には神様に救いを求める」という言葉も思いだし、

いつも神様に救われて、生きていることに感謝します。（か）